

11月2日にかけての大雨による農作物等に対する技術対策

令和6年11月1日
福岡県農林水産部経営技術支援課

11月2日にかけて、台風第21号から変わる低気圧や前線の影響により、暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となることが予想されます。

このため福岡県では、11月2日は局地的に雷を伴った大雨となり、総降水量が11月の平年の1か月の降水量を超え、土砂災害、浸水害や洪水災害の危険度が高まるおそれがありますので、以下の事項等について指導をよろしくお願いします。

また、ほ場・農業用施設の見回りには気象情報を十分に確認し、人命を最優先に事故の防止を徹底するよう、併せて注意喚起をお願いします。

なお、その他の対策については、「農業災害技術対策マニュアルと気象災害工夫事例集（平成17年3月）」を参考にしてください。

【大豆】

- (1) 大雨による停滞水を、出来るだけ早くほ場外に排出するため畦溝や排水溝の整備を行う。
- (2) 大雨後は以下の対応を実施する。
 - (a) 地表排水と共に、本暗きよの栓を開けて地下排水を図る。
 - (b) 停滞水がある場合は、畦溝や排水溝を再整備し早急に排水を図る。

【施設（野菜・花き・果樹共通）】

パイプハウス・温室共通

- (1) ハウス内外にある流亡しそうな物は片付ける。
- (2) 施設周囲の作溝により、排水路を整備し排水に努める。
- (3) オイルタンクの元栓は閉めて、本体が転倒しないように十分固定する。
- (4) 浸水による漏電、ショートを防ぐため、回路の防水を確認しておくとともに不要な電源は切っておく。
- (5) 防水壁や排水ポンプがある場合は、事前に土嚢等で補強し、ポンプを点検しておく。
- (6) 養液栽培等、停電による影響が大きい施設では、事前に自家発電機を準備する。
- (7) 停電が発生した場合は、復旧後に直ちにタイマー等の調整を行う。

【野菜】

- (1) 大雨による停滞水を、出来るだけ早くほ場外に排出するため畦溝や排水溝の整備を行う。
- (2) 浸・冠水した場合には、早急にほ場内の排水を行うとともに以下の対応を実施する。
 - (a) 葉に付着した泥が乾かないうちに水で洗い落とすとともに、病害予防の薬剤散布を実施する。
 - (b) 草勢が低下しやすいので、薄い液肥の葉面散布を行う。
 - (c) マルチ栽培では、可能な場合、畝の肩までマルチを上げ、土壌水分の蒸発を促し、通気性を良くする。
 - (d) ほ場が乾き始めてから軽く中耕し、新根の発生を促す。また、土が流亡し根が露出している場合は土入れを行う。土砂が流入し株元が埋まっている場合は株元の土砂を除去し、畝を中耕して通気性を高める。
- (3) 施設栽培の果菜類は、草勢低下が懸念される。果実を小さめのサイズで収穫し、着果負担を軽減する。
- (4) 降雨量が多い場合は肥料の流亡も大きいので、遅れないよう追肥を行う。根が衰弱している場合は、液肥の葉面散布を行う。

【果樹】

- (1) 病害の発生に注意し、特に、カキでは炭疽病、ミカンでは黒点病、キウイフルーツでは果実軟腐病・貯蔵病害の発生が多くなるので防除を徹底するとともに以下の対応を実施する。
 - (a) 防除を行う際は、農薬登録使用基準を確認する。
 - (b) 発病部位は速やかに園外に除去する。
 - (c) 傾斜地におけるスピードスプレーや防除の際には、作業道・園内の土壌の流入や流亡・施設の損壊状況を確認した上で、事故のないよう万全を期して行う。
- (2) 園内が長時間湛水すると根痛みによる樹勢低下を招きやすいため、過剰な土壌表面水は速やかに園外に排出する。
- (3) 表土が流亡した場合は、根が露出し、根域が浅くなり、樹勢低下や樹体の支えができなくなることから、速やかに覆土を行い、樹が倒れたものは復元し、支柱を添えて固定する。

【花き】

- (1) 浸水を受けた場合は、早急にほ場内の排水を行うとともに以下の対応を実施する。
 - (a) 葉に付着した泥が乾かないうちに水で洗い落とすとともに、病害予防の薬剤散布をできるだけ速やかに実施する。
 - (b) マルチ栽培の場合は、畝の肩までマルチを上げ、土壌水分の蒸発を促し、通気性を良くする。

- (c) 土砂が流入し株元が埋まっている場合は、株元の土砂を除去し畝を中耕して通気性を高める。
- (2) 作物が倒伏した場合は、直ぐに立て直す。
- (3) 花木類の根が露出しているものは、直ぐに土をかけるか、敷わらや寒冷紗等で覆い、直射日光による根の乾燥を防ぐ。

【茶】

- (1) ほ場内に滞水しないように畝内の障害物を除去する。
- (2) 浸水や土壌流亡の恐れのある場合、土のうを積む等の対策をとるとともに、排水溝を整備し排水に努める。
- (3) 新植園や傾斜地の茶園で、大雨により根が洗い出された場合は乾燥を防ぐため土寄せをする。
- (4) 雨漏れの危険性がある茶工場では、屋根や壁の補強を行い、製茶機械をブルーシートなどで覆う。

【畜産】

- (1) 畜舎内外の排水溝の流れを点検する。
- (2) 畜舎内に雨が入らないように破損箇所は事前に修理する。
- (3) 尿溜めや堆肥舎に雨水が流入しないように防水対策をとる。
- (4) 施設内に入り込んだ水は速やかに排水する。
- (5) 畜舎内へ浸水があったところでは、衛生管理に注意し、水洗後に消毒を行う。
- (6) 濡れた敷料は舎外に運び出し、乾いた敷料に交換する。
- (7) 濡れた飼料はカビが発生し易いため、濡れた直後であれば優先的に速やかに給与するが、品質の劣化が感じられた場合は即刻給与を中止する。
- (8) 排水溝が土砂等により埋まっているところは直ちに取り除き、排水を良くする。
- (9) 雨水を多く含む堆肥は発酵が進まず、害虫の発生源となる。乾いた堆肥やオガクズ等を加えて水分調整を行い、攪拌発酵により良質堆肥化を図る。

【飼料作物】

- (1) イタリアンライグラスの播種時期のため、ほ場に水が停滞した場合は、排水口等の整備を行い、速やかに排水を図る。
- (2) 降水量が多い場合は肥料の流亡も多く、肥料切れ等による生育の遅れを回復させるため、窒素肥料を主体とした追肥を実施する。